

谷陽卿 （あきひ） 醫家。文化十一年十月五日丹波國船井郡鹽田谷村生れ。明治十八年七月十四日歿（一八五―八五）。舊姓谷口、諱陽、字養徳、幼名脩吉、通稱應貞、應定。號霧谷山人。天保七年與田省齋の門に入りて醫術を修め、開業して九條家の血醫ともなつた。明治二年小笠原諸島開拓に關し建言書を民部省に提出。翌年九條家を致仕。同中心と無人島開發社を設け、社長に推された。また鐵道開通に關して、「驪馬金以火輪車之議」及び「火輪車建議之餘論」といふ建白書（一通き當田路者の提出、由つて鐵道史上の先覺者と目される。なほ次女赫せはドイツ人醫師シヨイブの妻となり、一女ハルを儲けた。

『鐵道の先覺 谷陽卿の生涯』（日本國有鐵道史料整理滿總談會編、昭和二十四年七月十五日交通滿力会）には、右記建言、建白書をも収める。

